

入所系施設で新型コロナウイルス感染症（疑い）患者が発生した場合の5類移行後の対応（別紙）

令和5年5月2日県央保健所作成

陽性患者の療養・感染対策など（全般）

陽性患者や感染の可能性がある利用者のケア等にあたる場合には「施設内療養時の対応の手引き」(<https://www.mhlw.go.jp/content/000783412.pdf>)を参考に、各施設で判断の上、対応していただくようお願いします。

陽性患者の療養（例）

- ・ 1日2回、健康状態（体温、酸素飽和度（SpO₂）、その他の症状）を確認し記録
- ・ 体調に変化があった場合は施設医等に相談
- ・ 施設医等に相談できない場合は健康相談コールセンター0854-84-9810（平日・休日とも8:30～21:00）に相談（症状悪化など緊急の場合は時間外も受付）
- ・ 緊急を要する症状はためらわず救急要請を
※次の症状に限らず、陽性患者ごとの救急搬送の目安（SpO₂の数値）等について、あらかじめ施設医等に確認しておくことよい

【緊急を要する症状の目安】

- 〔表情・外見〕 ・ 顔色が明らかに悪い ・ 唇が紫色になっている
 - ・ いつもと違う、様子がおかしい
- 〔息苦しき等〕 ・ 息が荒くなった（呼吸数が多くなった） ・ 急に息苦しくなった
 - ・ 生活をしていて少し動くと息苦しい ・ 胸の痛みがある
 - ・ 横になれない。座らないと息ができない ・ 肩で息をしている
 - ・ 突然（2時間以内を目安）ゼーゼーしはじめた
- 〔意識障害等〕 ・ ぼんやりしている（反応が弱い） ・ もうろうとしている（返事がない）
 - ・ 脈がとぶ、脈のリズムが乱れる感じがする

- ・ 療養期間の目安は発症日を0日として翌日から5日間経過かつ症状軽快後24時間経過するまで
- ・ 10日間経過するまではウイルス排出の可能性があることから、感染対策の徹底や高齢者等のハイリスク者との接触を控えることを推奨。可能な場合は11日目以降から通常対応とすることを検討

感染の可能性がある者の健康観察（例）

- ・ 1日2回、健康状態（体温、酸素飽和度（SpO₂）、その他の症状）を確認し記録
- ・ 体調に変化があった場合は施設医等に相談
- ・ 緊急を要する症状はためらわず救急要請を
- ・ 健康観察を強化する期間の目安は陽性患者との最終接触日を0日として7日間（特に5日間は要注意）

陽性患者への対応（例）

- ・レッドゾーン対応
- ・フルPPE対応を推奨（PPE（personal protective equipment）＝個人防護具）
（フルPPE：N95マスク、手袋、ガウン、フェイスシールド（ゴーグル））

【陽性患者の療養・感染対策など個人防護具（PPE）の選択（参考）】

サージカルマスク：常に着用

ゴーグル・フェイスシールド：飛沫曝露のリスクがある場合に装着

手袋とガウン：患者および患者周囲の汚染箇所に直接接触する可能性がある場合に装着

N95 マスク：エアロゾル産生手技を実施する場合や激しい咳のある患者や大きな声を出す患者に対応する場合に装着（食事介助、口腔ケア、吸引など）

- ・可能な限り、担当職員を固定する
- ・夜勤時など担当職員の固定が困難な場合は、①その他の入所者→②感染の可能性のある入所者→③陽性患者の順にケアし、入所者ごとの手指衛生、PPEの着脱等に特段の注意を払う
- ・個室対応（陽性患者どうしは同室可）、ケア時は個室も換気
- ・トイレ・洗面の共用を控える
- ・個室を出ないよう注意喚起（認知症等により困難な場合は陽性患者以外の者を個室対応にすることも検討）
- ・一部のケアを必要最小限に縮小し職員の負担を減らす（入浴介助→清拭など）

感染の可能性のある入所者への対応（例）

- ・感染の可能性のある入所者も可能な限りレッドゾーン対応（フルPPE対応）が望ましい
食事介助、口腔ケア、吸引などをする場合は少なくともN95マスク、フェイスシールド（ゴーグル）を
- ・換気の徹底、リスクの高い活動（入所者どうしが近距離接触、大声を出すなど）を控えるなど感染対策徹底
- ・感染の可能性のある入所者とそれ以外の入所者が接触しないよう工夫する（別室対応、トイレや洗面をわける、食事時間をわけるなど可能な範囲で）
- ・一部のケアを必要最小限に縮小し職員の負担を減らす（入浴介助→清拭など）
- ・感染の可能性のある入所者の感染対策を強化する期間の目安は
 - ① 5 類移行前の濃厚接触者の自宅待機期間は陽性患者との最終接触日又は感染対策を講じた日を 0 日として 5 日目まで、高齢者等ハイリスク者との接触を控える期間は 7 日目までとされていたこと
 - ② 5 類移行後は同居者に対して「新型コロナにかかった方の発症日を 0 日として、特に 5 日間はお自身の体調に注意してください。7 日目までは発症する可能性があります。こうした間は、手洗い等の手指衛生や換気等の基本的感染対策のほか、不織布マスクの着用や高齢者等ハイリスク者と接触を控える等の配慮をしましょう。」とされていること
を踏まえて施設で判断ください

職員の感染対策（例）

- ・感染の可能性の有無にかかわらず症状があれば休む
※抗原定性検査キット陰性であっても新型コロナ感染の可能性を否定できないことに留意
- ・感染の可能性のある職員は自宅待機を検討
- ・感染の可能性のある職員（無症状者に限る）を勤務させる場合は、他の職員・入所者にできるだけ接触しない、やむを得ず接触する場合もリスクの高いケア（食事介助、口腔ケア、入浴介助など入所者がマスクのない状態で近い距離のケア）はできるだけ控える、毎日抗原定性検査キットを活用する、など感染対策の強化を検討
- ・更衣室・休憩室での換気の徹底、距離の確保、時間や場所の分散、黙食徹底、喫煙場所などマスクなしでの会話はしないなどの感染対策強化
- ・可能な限り、担当職員を固定する
- ・夜勤時など担当職員の固定が困難な場合は、①その他の入所者→②感染の可能性のある入所者→③陽性患者の順にケアし、入所者ごとの手指衛生、PPEの着脱等に特段の注意を払う

ゾーニング（例）

- ・「施設内療養時の対応の手引き」（<https://www.mhlw.go.jp/content/000783412.pdf>）を参照

<p>レッドゾーン：ウイルスが存在する区域 イエローゾーン：防護具を脱ぐ場所、ウイルスが存在する可能性がある区域 ※イエローゾーンを設けない場合はレッドゾーンの出口付近で防護具を脱ぐ グリーンゾーン：ウイルスが存在しない区域</p>
--

- ・感染の可能性のある患者も可能な限りレッドゾーン対応が望ましい
- ・陽性患者や感染の可能性のある患者が少ない場合は個室のみをレッドゾーンにすることを検討
- ・陽性患者や感染の可能性のある患者が多くなればエリア全体をレッドゾーンにするなど、状況が変わる度にゾーニングの見直しを検討